

前期「学校評価アンケート」にご協力いただきありがとうございました

保護者の皆様には、9月の前期「学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。

前期の学校評価は、保護者や教職員、児童生徒のアンケート結果と、授業参観等でいただいたアンケートの結果を踏まえて分析をしました。紙面では、保護者アンケートの結果を学部別の表にして掲載しています。さらに、本校ホームページにて、教職員と保護者全体の結果を比較したグラフや、児童生徒のアンケート結果をグラフにしたものを掲載いたしますので、別途ご覧ください

なお、前期学校評価アンケートにつきましては、自由記述欄でいただいたご意見もすべて、全教職員に周知しています。また、分析結果を学校運営協議会においても報告し、委員の方からご意見をいただきました。皆様の貴重なご意見を参考にして、全教職員で課題改善に取り組んでまいります。これからも、よろしくお願いいたします。

また、後期の「学校評価アンケート」は1月上旬に実施する予定です。ご協力をお願いいたします。

<前期学校評価アンケート結果分析について>

◎実施 令和元年9月

◎方法 各項目について「重要度」と「実現度」を5段階で回答（児童生徒は実現度のみ）

◎回答率 * 1家庭に1枚配布

	保護者	児童生徒	教職員
回答数	139	95	131
回答率	77.7%	51.3%	100%

◎アンケート項目について

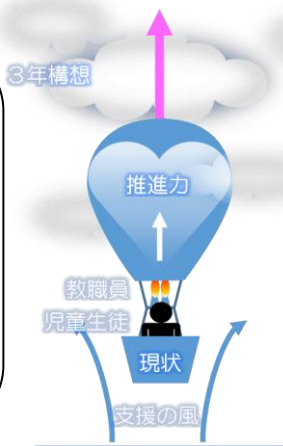
今年度の学校教育目標に沿って、めざす児童生徒像の七つの姿を基に作成しています。

学校教育目標

社会参加し、生き生きと活動したいという児童生徒の願いを実現するために個々の可能性を最大限に伸ばす

めざす児童生徒

- 自分の心や体を大切にする人
- 人を大切にし、共に生きる人
- 願や夢に向かってすすむ人
- 負けない心をもってすすむ人
- 役割を担い、役に立とうとする人
- 挨拶をする人
- ルールや約束を守る人



<呉竹バルーン構想>

めざす学校像

- 生命を守りきる学校
- 児童生徒の学びを大切にする学校
- 信頼される学校（保護者や地域との信頼関係を基にした、安心・安全で開かれた学校）
- 教職員が夢や希望をもって働ける学校

めざす教職員像

- 児童生徒の健康・安全を守る人
- 児童生徒を愛し、児童生徒の人権を大切にする人
- 児童生徒の主体性を尊重する人
- 授業を愛し、熱意をもって児童生徒を指導・支援する人
- 自らの専門性向上をめざして日々精進する人
- 保護者や地域と連携し、他の教職員と協力しながら仕事をする人

<呉竹バルーン構想とは>

共生社会の実現や自立と社会参加をめざし、呉竹総合支援学校再構築に向け、今年度より3年計画で展開しています。

※詳しくは、学校ホームページ「学校教育目標・経営方針」のフォルダをご参照ください。

◎【表】アンケート結果

・重要度は「重要である」と「やや重要である」、実現度は「よく出来ている」と「大体出来ている」の回答を合わせた割合(%)を学部別に表示しています。

質問項目	重要度			実現度		
	小	中	高	小	中	高
◆自分の心や体を大切にすること						
・学校は、健康維持や体力づくりに十分取り組んでいる	100%	97.0%	100%	87.9%	97.0%	90.8%
・学校は、児童生徒が健康について意識できるように取り組んでいる (「しんどい」ことを伝える、薬を飲む 等)	100%	96.9%	98.6%	75.8%	78.8%	89.4%
・児童生徒は、自分の心や体を大切にしようとする姿が育っている	100%	100%	98.5%	72.7%	69.7%	77.2%
◆人を大切に、共に生きる人						
・学校は、児童生徒がいろいろな人と関わって活動できるように取り組んでいる (校内、地域 等)	100%	93.9%	97.0%	90.9%	90.6%	83.3%
・学校は、児童生徒が相手のことを考えて行動しようとする態度を育てる取組をしている	93.8%	93.9%	97.1%	81.8%	72.8%	84.9%
・児童生徒は、いろいろな人と関わって、自分らしく活動している (校内、地域 等)	97.0%	94.0%	100%	87.9%	84.9%	78.7%
◆願いや夢に向かってすすむ人						
・学校は、児童生徒の願いや目指す姿を、本人や保護者と共有している	90.9%	94.0%	100%	69.7%	81.3%	89.4%
・学校は、児童生徒の願いや目指す姿の実現に向けて包括支援プランを作成している	97.0%	97.0%	100%	81.8%	93.9%	92.4%
・学校は、児童生徒の目指す将来の姿や進路の実現に向けて、個々に応じた指導や支援を行なっている	100%	97.0%	100%	69.7%	75.7%	84.8%
・学校は、児童生徒の目指す将来の姿や進路の実現に向けて、情報発信を行なっている	94.0%	90.9%	100%	60.6%	63.6%	83.0%
・児童生徒は、願いや夢に向かって生き生きと学習している	90.9%	94.0%	100%	81.8%	75.8%	77.3%
◆負けない心をもってすすむ人						
・学校は児童生徒が苦手なことに挑戦したり、最後まで活動に取り組んだりできるよう支援や指導をしている	93.9%	94.0%	98.5%	87.9%	78.7%	81.9%
・児童生徒は、初めてのことや苦手なことに挑戦したり、最後まで活動に取り組んだりしている	100%	96.8%	97.1%	84.9%	63.3%	81.8%
◆役割を担い、役に立とうとする人						
・学校は、児童生徒が役割を担うことで、やりがいを感じて活動できるようにしている	100%	96.9%	100%	90.9%	86.7%	84.8%
・児童生徒は、様々な場面で役割を担い、やりがいを持って活動している	100%	96.9%	100%	81.9%	80.0%	74.2%
◆挨拶をする人						
・学校は、児童生徒が自分なりの方法で、挨拶できるように取り組んでいる	100%	100%	100%	93.9%	83.9%	84.9%
・児童生徒は、自分なりの方法で挨拶をしている	100%	96.9%	98.6%	90.9%	80.6%	84.8%
◆ルールや約束を守る人						
・学校は、児童生徒がルールや約束を守ることの大切さを学べるように、指導をしている	100%	100%	98.4%	84.9%	71.0%	81.8%
・児童生徒は、様々な場面でルールや約束を守って行動している	96.9%	100%	98.6%	72.7%	71.5%	80.3%
◆全体に関すること						
・学校は、児童生徒の健康・安全を守っている	100%	100%	100%	84.9%	90.0%	95.4%
・学校は、児童生徒を愛し、児童生徒の人権を大切にしている	100%	100%	100%	81.8%	90.0%	92.3%
・学校は、授業を大切に、熱意をもって、児童生徒の指導や支援をしている	100%	100%	100%	87.9%	93.4%	84.7%
・学校は、学年だよりや学校だより、学校ホームページ等を通して学校の様子を伝えている	100%	100%	100%	90.9%	90.0%	89.3%

◎分析結果



(1) <自分の心や体を大切にすること>



「児童生徒が自分の心や体を大切にしようとする力」は、生涯必要な力。
学校生活全体の指導を通して、児童生徒一人一人が自分の心身に意識を向け、健康に過ごしていける力を培っていく。

① <自分の心や体を大切にすること> を目指す取組に対しての質問項目は3つありました。全ての項目の重要度は(「重要である」「やや重要である」を合わせた回答：以下同じ)保護者全体(以下保護者)・教職員全体(以下教職員)共に、ほぼ100%でした。一方、実現度(「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせた回答：以下同じ)は、各部の保護

者や各項目によって 69.7%から 97.0%と差がありました。中でも「**児童生徒は、自分の心や体を大切にしようとする姿が育っている**」の項目に於いては、中学部の保護者の実現度が 69.7%と低い回答となりました。児童生徒アンケートの「自分の体を大切にしている」の項目において実現度（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた回答：以下同じ）の回答は 98.8%で、児童生徒は自分で自分の心や体を大切にしようとしていることが伺えました。中学部段階は、心身ともに大きく成長する第二次性徴期でもあります。生徒の心身の変化や、毎日の体調管理に心を配り、保護者や保健室と連携を取りながら、丁寧な指導ができるようにしていきたいと考えます。この項目は、児童生徒にとって生涯にわたって必要な力となります。児童生徒一人一人が自分の心や体を大切にすることの課題は違います。自分の心身の状態を「振返る力」・「気づく力」・「指導者等と共有する力」・「周りに伝える力」等、様々だと言えます。これからも、児童生徒の課題に応じて、小学部から学校生活全体を通して、児童生徒一人一人が自分の心身に意識を向け、健康に過ごしていける力を培っていけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

（２）＜人を大切にし、共に生きる人＞

「相手のことを考えて行動できる力」「いろいろな人と関わって、自分らしく活動する力」は、校内の取組だけでなく、「スポーツ交流大作戦」や地域交流、校外学習、実習等を通して培っていく。

＜人を大切にし、共に生きる人＞を目指す取組に対しての質問項目は 3 つありました。どの項目に於いても、重要度は高い回答でした。しかし、「**学校は、児童生徒が相手のことを考えて行動しようとする態度を育てる取組をしている**」という項目に於いては、中学部の保護者の回答が 72.8%と低く、「わからない」という回答が 12.1%ありました。このことから、前期前半の取組の様子が保護者に十分に伝わっていなかったことが考えられます。今年度より、障害者スポーツによる交流および共同学習を通した障害者スポーツの普及・啓発として「スポーツ交流大作戦」の取組を進めています。特に中学部では、校内の取組だけでなく、この「スポーツ交流大作戦」を通して、他校の生徒との交流もしています。いろいろな人と関わって、自分らしく活動できることは、卒業後の生活でとても大切な力となります。他学部でも、居住地校交流や学校間交流、日々のワークスタディや職場体験実習、校外学習等、様々な人との触れ合いを通して学習を進めています。たくさんの経験を重ねることで児童生徒が相手のことを考えて行動しようとする力を培っていきたいと考えます。

（３）＜願いや夢に向かってすすむ人＞

「児童生徒が、願いや夢に向かって生き生きと活動している」という姿を引き出すために、三者の願いから立てた一人一人の目標を保護者と共有し、児童生徒の目標が達成できる授業づくりに励んでいく。

「**児童生徒は、願いや夢に向かって生き生きと活動している**」という項目に於いて、中学部・高等部の保護者の実現度は、75.8%・77.3%と少し低い結果でした。児童生徒アンケートでは、「学校の授業内容は、良くわかる」の項目に於いて、実現度は 92%でした。授業参観時のアンケートでは、「生き生きと活動していますか」の出来ているとする回答（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた回答：以下同じ）（無回答を除く）は 100%でした。このことから、児童生徒は、学校生活や授業では生き生きと活動していることが分かります。日々の学習は、三者の願いから出てきた願い（目標）を達成するためにユニットを編成し、授業づくりをしています。一人一人が自分の目標を達成することで、児童生徒は夢や願いに近づいていくものと考えます。これからも、一人一人の目標を明確にして、児童生徒の目標が達成できるよう、児童生徒が生き生きと活動できる授業づくりに励んでいきたいと思ひます。

（４）＜負けない心をもってすすむ人＞

児童生徒が苦手なことに挑戦したり、最後まで活動に取組んだりできるよう、引き続き、ユニット会や授業担当者会を通して、授業内容や指導支援方法について検討し、保護者に学習や児童生徒の様子を伝えていく。

＜負けない心をもってすすむ人＞を目指す取組に対しての質問項目は 2 つありました。いずれの項目に於いても重要度は高い回答でした。しかし、「**児童生徒は、初めてのことや苦手なことに挑戦したり、最後まで活動に取組んだりしている**」という項目に対して、中学部保護者の実現度が 63.3%と少し低く、「わからない」という回答が 20%ありました。生徒の様子がまだ十分に伝えられていないことがわかります。中学部は「生き方チャレンジ体験」や「ワークスタディ」等で学習の幅が広がり、授業を通して新しい事に挑戦する機会が増えてきました。また学部が上がるごとに学習の環境が変わり、より多くの経験をしていきます。本校では、ユニット会や授業担当者会を行い、授業内容や指導支援方法について検討をしています。今回のアンケートの結果を受けて、より密に保護者に学習や児童生徒の姿を伝えていけるようにしていきます。





(5) <役割を担い、役に立とうとする人>

児童生徒が、様々な場面で役割を担い、やりがいを持って活動している姿を共有するために、「何のために」「何を」「どのように」取り組んでいるのかを保護者に伝えていく。

<役割を担い、役に立とうとする人>を目指す取組に対しての質問項目は2つありました。いずれの項目に於いても重要度は高い回答でした。しかし、「**児童生徒は、様々な場面で役割を担い、やりがいを持って活動している**」という項目に於いて、高等部の保護者の実現度が74.2%と少し低い結果となりました。児童生徒アンケートの結果では「学校で、当番や係活動に頑張っている」項目に於いて、実現度は95.4%でした。この結果から、児童生徒はやりがいを持って活動しているが、その姿を十分に保護者に伝わっていない様子が伺えます。「何のために」「何を」「どのように」取り組んでいるのかを明確に保護者に伝えていく必要があることが分かりました。さらに、児童生徒がやりがいを持って活動するためには、教職員が、児童生徒のできた姿を認め、褒めることが大切な支援の一つであると考えます。この結果を、教職員で共有し、これからの取組に生かしていきたいと考えます。

(6) <挨拶をする人>

児童生徒は、自分なりの方法で挨拶ができている姿が80%以上見られた。
これからも、自分らしく挨拶ができるよう、日々の挨拶の機会を大切にしていきたいと思います。

<挨拶をする人>を目指す取組に対しての質問項目は2つありました。いずれの項目に於いても重要度は高い回答でした。保護者の実現度も各部80%以上の回答となり、児童生徒は自分なりの方法で挨拶ができている様子が伺えました。挨拶の方法は、児童生徒一人一人違いますが、挨拶は相手とコミュニケーションをとる姿であり、自分なりの表現方法を身に付け、自分で発信する力は大切な力であると考えます。学校では、児童生徒会本部役員が中心となり、年に2回一週間にわたりあいさつ運動が行われ、登校時に気持ちの良い挨拶ができるよう学校全体で取り組んでいます。これからも、日々の挨拶の機会を大切にしていきたいと思います。

(7) <ルールや約束を守る人>

児童生徒は、学校生活を通してルールや約束を守って行動する力が育ってきているが、
家庭や地域生活の中では、まだ十分とは言えない状況がある。
身に付いた力を生かしていけるよう、学習を積み重ねていく。

<ルールや約束を守る人>を目指す取組に対しての質問項目は2つありました。いずれの項目に於いても重要度は高い回答でした。「**学校は、児童生徒がルールや約束を守ることの大切さを学べるように、指導している**」という項目に於いては、教職員の実現度は、92.2%となり、学校では様々な機会や授業を通して取組を進めていることが分かります。一方、「**児童生徒は、様々な場面でルールや約束を守って行動している**」という項目に於いて、保護者の実現度は76.4%と低い回答となり、教職員の実現度は、88.9%、児童生徒アンケートの回答は96.6%と高い評価となりました。この結果から、学校では児童生徒が様々な場面でルールや約束を守って行動する姿が見られるが、家庭等の場面ではその姿が見えにくいということが分かりました。学校では、ルールや約束は「互いに心地よく」、「互いを尊重して生活する」ためにあり、行動することの大切さを伝えていきます。児童生徒は、学校生活を通して、自分はどのように行動するのが良いかを考え、自分で行動できるようになることを目指して学習を重ねています。その場（公共）に応じた行動をとるためには、たくさんの経験や学びが必要だと考えます。これからも、学校生活で取り組んだ力を家庭や地域等で生かしていけるよう、児童生徒の実態に合せて取り組んでいきます。

(8) <全体に関すること>

学校が児童生徒の「健康や安全を守る」、「児童生徒を愛し、人権を大切にする」、「熱をもって指導や支援をする」ことは、保護者・教職員共に肯定的な実現度が100%になることが必要。信用や・実績を積み重ねていく。

<全体に関すること>を目指す取組に対しての質問項目は4つありました。いずれの項目に於いても重要度は高い回答でした。教職員が、児童生徒の「健康や安全を守る」ことや、「児童生徒を愛し、人権を大切にする」こと、「熱意をもって指導や支援をする」ことは、必要不可欠のことです。保護者・教職員の実現度が100%になるよう、いただいたご意見を共有し、日々の指導・支援を振り返って取り組んでいきたいと思えます。また、保護者の意見の中に、今年度ホームページの掲載が少ないというご意見をいただきました。学校の取組を十分に伝えていけるよう学部と連携を取って進めていきます。

<学校運営協議会より>

- 家庭や地域で、また卒業後に生き生きと生活するために、**学校生活を通してたくさんの人と接することが大切。**
- 学校で培った力を、地域社会で発揮したり伸ばしたりすることができる。各関係機関等と連携して行事や活動、大会に積極的に参加するとよい。

アンケートにご協力をいただきありがとうございました。

